

令和2年度 学校経営の基本方針

1 基本理念

学校は、学習指導要領に基づく「生きる力」の育成をめざし、「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力づくり」の調和のとれた教育活動の推進が求められており、義務教育にあつて、小学校教育は、子どもが将来、社会的自立・職業的自立を果たし、変化の激しい社会をたくましく生き抜くために必要な「知」「徳」「体」の基礎を育成する場である。

本校は、横須賀市の指導の重点『重点1 学力を向上させます』『重点2 認め合い高め合う関係を築く力を育てます』『重点3 健康の保持増進と体力の向上を図ります』を基盤に、新たな時代を生き抜くことができる子どもの育成のために、教職員が協働して、地域・保護者から信頼される学校づくりの確立を目指し取り組むものとする。

2 学校教育目標

『自ら学び、豊かな心で、夢に向かう子』

- ① 自ら進んで問題に取り組み学ぼうとする子
- ② 命や人権を大切にして、広い心をもち共に学び合い支え合う子
- ③ 自分の夢をもち、自分の良いところを伸ばし努力する子

教育目標の達成のために

- ① 全ての教育活動は、学校教育目標実現のための活動である。
- ② 学年・学級は、学校教育目標実現のため、一人ひとりの発達段階に応じた指導にあたり、全ての子どもが学力を高められるよう目標を設定する。
- ③ 全ての指導は、「学力向上」「きめ細かな指導」「発展的な学習」「学ぶことの楽しさの体験」「学ぶ機会の充実」の方策を重点として取り組む。
- ④ 教員と子ども・保護者・地域による学び合いを進め、協働と信頼に根ざした開かれた学校づくりを目指す。

3 具体目標（めざす子ども像）

よく考え やさしく たくましく

① よく考え

- ・ 課題意識をもち、自ら調べ、学習する子
- ・ 自分の考えや思いを進んで発表ができる子
- ・ 学ぶことに喜びをもつ子
- ・ 基礎・基本の知識や技能を進んで学ぼうとする子

② やさしく

- ・ お互いを認め合い、協力し合うことができる子
- ・ いじめをしない、許さない子
- ・ 人としての優しさ、思いやりがある子
- ・ 自然を愛し、命を大切にする子

③ たくましく

- ・ どんな事にでも最後まで頑張って取り組める子
- ・ 友達と元気に遊べる子、外遊びができる子
- ・ 健康で丈夫な身体をつくれる子、運動が好きな子
- ・ 責任をもって取り組める子

めざす教師像

- 信頼される教師
- 人間力のある教師
- 学び続ける教師

4 めざす学校の姿（目標の具現化に向けての姿）

(1) 子どもたちにとって楽しい・行きたい学校とは

- ① 学習内容が分かりやすく授業が楽しい学校
- ② いじめ・差別・暴力がない、仲の良い友達がいる学校
- ③ 子どもを認め・励まし・ほめ・しかる。そして支えてくれる先生がいる学校
- ④ 行事等、仲間と助け合って全力で取り組める学校
- ⑤ 安全・安心な学校

(2) 保護者・地域が期待する学校とは

- ① 気軽に相談ができる環境であり、子ども・保護者・地域に開かれた学校
- ② 基礎的・基本的な学習を確実に身につけさせてくれる学校
- ③ 基本的な生活習慣を身につける手助けをする学校
- ④ いじめや差別、暴力がない、子どもがいきいきと活動している学校
- ⑤ 安全で安心して生活ができる環境の整った学校

5 令和2年度の重点目標

(1) 効果的な学習指導の方法やあり方を研究・研修し、授業の質の向上に努める。

- ① 学力向上プランを策定し、推進・具現化を図る。
- ② 校内研究では、授業研究を中心に研究を進め、教師の授業力向上を図る。
- ③ 主体的な学びをめざし、地域に根ざした「総合的な学習の時間」の充実を図る。
- ④ ICT機器を活用した授業や学校図書館の活用を盛込んだ授業の充実を図る。
- ⑤ 評価規準・基準の明確化（通信簿の検討）、指導と評価が一体化した指導計画や指導法の工夫・改善を図る。

(2) 人との関わりを通して、心が豊かな子どもの育成を図る学習・学級活動を進める。

- ① いじめや差別を絶対に許さない教育に努める。自己肯定感を育成する。
- ② 子ども一人ひとりの教育的ニーズに応えるための支援教育を進める。
- ③ 異年齢構成の小集団縦割り活動を通して、縦のつながりを大切にし、思いやりや責任感・協力・認め合い・助け合いの心を育てる。（集会・清掃）
- ④ 栗田老人デイサービスセンターとの交流や体験活動・地域の方々との交流を通して、いろいろな立場の人を思いやる心や協調性を育てる。
- ⑤ 日常生活の中で、あいさつの励行を進め、心の交流を一層深める。

(3) 校務分掌の内容と責任を明確にし、運営の効率化を図る。

- ① 教職員一人ひとりがもつ良さや特性を生かし、組織的に教育活動を展開する。
- ② 校務にあたり、他の分掌と連携をとりながら、組織的に円滑な学校運営がなされるよう努める。
- ③ 支援教育の充実を目標に、校内支援体制の整備を行い、インクルーシブ教育システムの構築に向け、教職員一人ひとりの指導力を高めていく。
- ④ 学校予算の効率的な編成と意図的・計画的・組織的な執行を行う。

(4) 家庭や地域との連携と地域教育力の活用を図り、開かれた学校づくりに努める。

- ① 保護者への対応は誠意をもって迅速に行い、常に「子どもの為に」という子ども中心の尺度で取り組む。
- ② 地域教育力のさらなる活用のため、学校人材バンクや学校ボランティア、ゲストティーチャーなどの活用を日常的に進めていく。
- ③ 学校日より、学級通信、懇談会等を活用し、学校の現状を知らせ、理解していただきながら、学校・子ども・地域の良さを生かした教育を進める。
- ④ 学校評価アンケート、学校評議員会、懇談会、外部評価などを通し、保護者や地域の意見や考えを把握し、学校改善に生かす。
- ⑤ 学校関係者評価委員会を充実させ、RG-PDCAサイクルに基づいた学校経営を推進する。

(5) 地域ぐるみで子どもの安全を確保し、教育環境の整備・充実を図る。

- ① 事故防止・事故対応に全校で取り組み、対応マニュアルを整備、訓練を通して職員の共通理解を図る。（避難訓練・不審者訓練・防犯教室・安全点検 等）
- ② 見守り隊や交通安全の会、子ども会、保護者や地域の方々による通学路における児童の安全確保や交通指導などの協力を得る。また、校外委員会を中心に、保護者・地域・教職員による校内外パトロール・安全マップづくり・声かけを実施し、安全確保の徹底を図る。

学校経営の土台

★明るく活気に満ちた職場づくり

★地域連携の推進

★人材育成

★学級担任や学校が抱え込まない市教委や関係機関を巻き込んだチーム支援の推進

★組織力の強い職員集団づくり(チーム栗田小)

★開かれた学校づくりの推進